

色鉛筆画

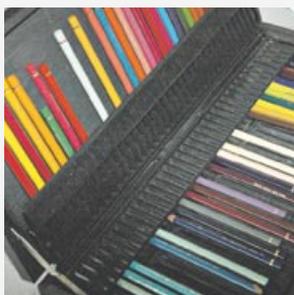
「色鉛筆って子どもっぽいなあ」そんな風に思う人もいるかもしれませんが、色鉛筆で絵を描くことは、大人も楽しめて、初心者の方でも気軽に始められます!

色鉛筆画とは?

色鉛筆には、ロウが含まれているので滑らかで独特な光沢があり、筆圧によって色の強弱が付けられます。やわらかなタッチで描けば鮮やかな色やソフトな色が表現でき、硬いタッチで描けば強く、勢いのある色が表現できます。このように一本の鉛筆で様々な表現ができることが色鉛筆の大きな特徴でしょう。また、混色をする時も線を重ねて作ることができるので綺麗で、鮮やかです。さらに、混色を繰り返しても濁りません。パレットや筆などの画材も必要ないので気軽に始められます。

画材

色鉛筆画に必要な画材を紹介。どれも簡単に揃えられますものばかりです。



色鉛筆

最初は、たくさん色を揃える必要はありません。必要最小限の色で始めてみましょう。



紙

基本的にはどのような紙にでも描けますが、色鉛筆の色が載りやすい多少厚手で、表面に凹凸のある紙をオススメします。

消しゴム

下書きや失敗した箇所を消すために使います。

鉛筆 (2B くらいが好ましい)

下書きに用います。下書きは薄く描くので、濃いめの鉛筆を使用し、消す場合でも濃い鉛筆の方が芯が柔らかいので消しやすいです。

下敷き

筆圧による色の濃淡や強弱を表現するため、紙の裏に敷きます。

定規

建物の高低や目安の線(下中央写真参照)、水平線や地平線などの普遍的なもの、直線で描かれる造形物を描く時に使うと便利です。

睦子先生の実践

「色鉛筆画に必要な画材も少なく、初めての人にもいいですね」とデモンストレーションで色鉛筆画について紹介してくれた睦子先生。専門は組み絵(ちぎり絵)ですが、ここでは、誰でも簡単にできる色鉛筆画の最初の一步を手ほどきしてくれました。



まず、構図を決めます。象徴になるものや自分が描きたい箇所を優先的に選びましょう(編集部:今回の風景はポストカードでシュミレーションしました)。



水平線は定規を使って真っ直ぐに描きます。次に、目安になる線を定規を使って、薄く引きます。この線は、ビル的高低さを感覚ではなく、正確に表現するためです。



建物を描きます。最初は下書きからです。全てを正確かつ詳細に描こうとせず、大まかに描いてみましょう。その際によく観察して、建物の高低さや奥行きを意識して描いてみましょう。

次ページ
左上へ



先生
紹介

Mutsuko Bonnardeaux ボナルドー 睦子

組み絵作家。ヨーロッパ在住後、オーストラリアに移住し、西豪州北部のカナラで受けた自然からのインスピレーションをもとにアートの世界へ傾倒する。また、様々な国でアートを学び、その経験から「組み絵」という自身のスタイルを確立。ベルギーやフランス、イタリアなどで個展を開き、ワークショップも開催。カナラ・アート賞やメルビル・アート賞など受賞経歴多数。
ウェブサイト: www.mutsuko.com.au

<睦子さんの過去の作品>

